

苫小牧自然環境保全審議会 第25期第2回（R5.3.20開催） 議事概要

(1) 樽前ガローに係る意見及び課題の集約・整理結果について

SWOT分析

1. 強み（内的要因）

景観・自然・植物等のキーワードを中心にあげられている印象

●黒崎委員

・コケに詳しい方がいて、協力してくれる。

⇒市から連絡する。

・樹名板を全ての木につけるのは景観の観点からも賛否両論がある。ガイドなどで使用する箇所のみ等限定しても良いのでは。

●松本委員

良好な景観の感じ方は人それぞれ。自然環境調査等で詳しく知れるとよりわかるのだが、今現在はどれくらいの情報があるのか。

⇒自然環境調査等を行ったことはないので、今後必要なのではないかと考えている。

●脇田委員

・コケや植物のいろいろな情報が集まるのは良いことだが、公開してしまうと興味のある方が川辺（立入禁止区域）等に入ってしまうリスクがある。全体的な景観とポイントで眺められる場所の線引きを改めて行うべき。注意が必要。

・苫小牧は海、湿原、林、高山が全て集まっているとても面白い地域なので、それも含めてガローの面白さを伝えていけたらと思う。

●郷路委員

下から見たいという気持ちがある方が多いと思う。一箇所だけでも良いので下（川辺）からガローを見渡せる箇所を作るのもどうか。

●菊地委員

樽前山、湧き水等も含め、ガローの成り立ち等を将来性のある子どもたちを中心に正確な情報を伝えるべき。

2. 弱み（内的要因）

委員からの意見が1番多かった項目

●菊地委員

・樽前ガローだけではなく、苫小牧として観光をどう捉えてるのか。（市に対しての質問）全体的なビジョンも理解してアピールしていくべき。

⇒苫小牧市観光ビジョン（概要版）ではあるが、次回資料として提供したい。

・最後のスケジュール（終着点）ありきで進めてしまうと、そこに向かっていってしまい、方向性を間違ってしまうことがある。自然のことなのでより慎重に。

●黒崎委員

・看板設置はありがたかったが、周知がされておらず、樽前の近所の方ですらわかってなかった。ゴミ問題もひどく、近所のために寄り添い、町内会に協力を求めたり、ボランティア袋の協力を求めたりすることが大切だと思う。

⇒年に数回ではあるが、樽前の方との意見交換会があるので、その際にボランティア袋に関して等を話していきたい。

・ヒグマの出没発生時間などを道外の方は理解していない。周知してほしい。（樽前ガローがヒグマがよく出る場所であるということも含めて。）

3. 機会（外的要因…機会、好機）

●脇田委員

アクセスが悪いので自転車を使うことは良いのでは。（サイクルロゲイニング）滞在時間も稼ぐことが可能である。

4. 脅威（外的要因…脅威、リスク）

特になし

5. 他の機会・脅威

新型コロナウイルスに係る規制緩和、G7、SNSの発信等・・・

全体を通して

●松本委員

崖下に入ってしまう、ヒグマに襲われた等の事故の責任が市にくる可能性があるのではやはり、いまいちどしっかり規制をはるべき。

(2) その他（今後のスケジュールについて）

以上